

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3393400035		
法人名	社会福祉法人 鶯園		
事業所名	グループホーム 蒜山		
所在地	岡山県真庭市蒜山上長田28-1		
自己評価作成日	平成27年10月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3393400035-00&PrefCd=33&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館
訪問調査日	平成27年10月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ISO規格での支援をもとに利用者様一人ひとり出来る事をしながら又、四季折々の季節を感じながら静かな環境で共同生活をしています。利用者様の思いに寄り添いながら日々穏やかに過ごして頂けるよう心掛けています。御家族との連携も大切にしながら又、地域の方々のお力も借りながら、どなたにも気軽に立ち寄りいただけるホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

午前10時から利用者職員全員がテーブルを囲んでお茶の時間となる。調査のため訪問した私たち2人も加えて頂き、楽しいコミュニケーションの輪が広がり、利用者の故郷や家族の思いで、ホームでの生活や楽しかったこと等を仲よし同士又は、全員で話が飛び交わせた後、場所をソファのコーナーに移って輪になり、当番の職員のリードでコミュニケーションを交えた体操、頭の体操、ゲーム等をしてお昼まで皆で過ごすのが恒例である。午後は利用者一人ひとりの思いに合わせた生活をしている。又、毎月、季節に合わせた貼り絵を利用者と職員で制作しており、リビングルームの壁や梁に掲げてあり、訪問した10月には見事な光景だった。12ヶ月の作品を翌年この場所にある施設全体で行う“とんど焼”で全部焚いてしまうのだそうだ。ちょっと勿体ないなあと思ったが、道祖神への感謝と祈念の行事でホーム全体の幸せを願って又、一年の出発をしているホームだと思った。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・理念は職員全員で共有する者なので、事業所内に掲示して確認を行っている。運営規定に分かりやすい表現で明示している。	ホームの理念を分かりやすく分析し、自分らしさ、尊厳、衛生、美味しい食事など9の目標を掲げ、実践・自己評価・話し合いを深めていく方式を取り入れている。その中で職員各自に深い思いやりとプロ意識が浸透している事が利用者の言葉や表情から信頼と感謝の意を感じ取ることが出来た。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・行事での外出、ボランティアとの交流をしている。 ・毎日の食材や必要物品の購入時にはなるべく利用者様に同行して頂き、地域とのつながりを大切にしている。	この地域で運営する全施設の一員として地域との付き合いを行っている。地域の福祉運動会では利用者も鉢巻きを締めて競技に参加している。隣接の高校生が慰問に来たり、学校行事に参加したり、地域の各種ボランティア団体との交流など定着している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・行事での外出、参加により地域の方との交流を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月に一回の会議において、ご家族を始めご本人、他の出席者からの生の声を聞いて具体的な支援の取り組みに役立っている。	グループホーム独自で行っていた会議を、全施設合同で運営推進会議を展開することになり、市関係者、民生委員、母体法人部門関係者、GH、利用者とその家族が参加し、より広い視点での情報交換や理解が深まっている。特に、家族から「家族も参加できる企画があれば「嬉しい」等の生の声が多く届いている記録を見る事が出来た。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営推進会議の場を借りて事業所の活動等を伝えたり、又、地域の一員として市内の活動に参加している。	運営推進会議には市の担当職員他必要に応じて保健師等の参加があり、日頃から意見交換してよく理解しあっている。市が行うセミナーや行事には積極的に協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・関連事業所内で「身体拘束をしないケアを実践」の委員を選出し、年2回と必要に応じて会議を行い、身体拘束のないケアを実践している現在、拘束ゼロの実績がある。 ・施設全体会議で年1回研修が行われている。	法人内の研修会の実施や身体拘束対策委員会に所属する職員からの伝達講習により、全職員が共通認識を持つようになっている。虐待、身体拘束については、重要案件として運営推進会議でも毎回状況報告を行ない、課題や問題を協議している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・施設全体会議で年1回研修が行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・利用者の権利を尊重する事を念頭にサービスの提供を進める。 ・施設全体会議で年1回研修が行われている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入所時の契約作成時に説明を行い、納得して頂いた上で確認印をもらっている。退去については契約に基づいている。改定については、その決定過程を明確にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・サービスに関するアンケート調査を行い、全体会議、G、Hミーティング、推進会議等で結果報告し、今後の支援についての話し合いを行っている。	年1回の家族に対するアンケート調査の実施、年4回の「にこにこ通信」の発信、毎月担当者が個人の情報を載せたり、便りを届けているので、運営推進会議席上では「よく報告してもらえるのでホームでの生活がよくわかる」等の意見があり、要望が多く出ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員は年2回、スキルアップとセルフチェックの自己評価表の作成を行った上で主任、管理者と面談を行い、意見、提案、相談等を行っている。	母体施設の施策の中に目標管理システムがあり、職員からの意見や要望を出すシステム作りがある。よく管理された職場環境の中で、職員の定着率も高い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・申請により有給を使った連続七日間のリフレッシュ休暇が取得できる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・研修に参加したり、資格取得の奨励を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・市内グループホーム全施設の参加により4ヶ月に一回連絡会議を行い、市職員からの伝達事項も含め情報交換、困難事例の相談の場となっている。又、講師を招き研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入所前に自宅を訪問し、気掛かりな事や意見・希望を気軽に相談できるよう努めている。 ・ご本人・ご家族の意向の確認。 ・ライフスタイルヒストリーの作成。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入所前にご本人も含めた面談を行い、ご希望等を汲み取る様に行っている。ご利用者の面接で信頼関係の足掛かりの糸口を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入所前にプラン作成(入所前調査表に基づいて)3ヶ月後ケア会議を開催、必要な支援の見極めを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・職員と利用者は常に平等の立場と考えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・ご家族と相談を密に行い、ご本人にとって最良の支援を心掛けている。 ・帰宅・外出・面会・月1回のお便り・外泊等、ご家族の環境により個々に対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・買い物外出・地域行事への参加・地元ボランティアの依頼・ご家族への手紙の支援。	地域の固定ボランティアの毎月の来訪、地元の行事、催しに積極的に参加する等、バランスと継続性が十分に保たれている。地元の行事に参加すれば「グループホームの人」としての馴染みの関係が出来ていくのが嬉しいと職員が話している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・ご利用者同士、職員も含めお互いに支え、認め合える生活、馴染みづくりの支援、環境づくりを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・現在までは退所者の方でその後の支援が必要な方は特におられない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・入所者のどのような行動にも理由があることを理解し、不安に感じている理由を考え、不安を取り除いたり和らげるよう努力している。	1日5分間、利用者と職員が一对一でコミュニケーションを図り、ケアマネと担当制のモニタリングの中で利用者の思いを汲み取る方式を確立している。気持・会話の合う人の交流が楽しめる為の配慮や、編み物が好きな利用者の作品を活かす工夫がなされ、利用者が満足している現場を見ることができた。(目標達成計画実施着手)	自分の好きなことや昔やってきたことをしてみたいと言う願望は、皆の共通したものであろうと思う。色々な小道具を身近に常設しておくことも、思いや意向の拡大につながるのではないのでしょうか。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・日常会話の中で生活歴の情報を得ることによりライフスタイルヒストリーの充実を図り、職員間で情報の共有を確実に行き、その人らしい生活が送れるよう心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・介護経過記録や日常生活チェック表の記入により、ほぼ24時間の生活状態や体調が把握できるシステムになっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・半年ごとのケア会議、モニタリングを行っている。 ・困難事例についてはご家族も会議に出席して頂き、より適切なプランの作成を心掛けている。	介護計画作成者は介護職を兼務しているので、利用者の日常をよく理解しやすく、さらに担当制のモニタリングや1日5分のコミュニケーションの中から総合してプランを立てている。 (目標達成計画実施着手)	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々のサポート日誌や職員間の連絡帳などで情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・その日の事であってもご家族からの希望等があれば速やかに対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・馴染みの関係の出来ている地域のボランティアの方に依頼を行い、ホームで行う行事のお手伝いや関わりを通じて豊かな暮らしを送れるよう、一部を担ってもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・個々にかかりつけ医があり、月一度往診を受け、健康チェックを行ってもらっている。	各自のかかりつけ医があり、月1回のホームへの往診がある。緊急時の対応と入院は母体施設の協力医が対応し、日常の健康チェックは看護職員が行い、かかりつけ医、協力医との連携が十分取れているので、利用者、家族は安心できている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・細かく行っている。事業所内の職員の看護師による健康チェックがあり、緊急時の相談等細かく連携を行い、適切な処置を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・ご家族を交え相談に努めている。 ・退院前には病院関係者から情報提供を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化された場合、ハード面に対応しきれない部分があるため、入所時に説明を行い、理解を得ている。直面した場合にはご家族と話し合い、最善の方法を考えていきたい。	医療行為の必要性と入浴困難が生じた時は家族と話し合い、入院措置や特養との調整を行っている。最近では、食事が摂れなくなり、入退院を繰り返す利用者の対応を行っており、家族の要請でターミナルに近い状態で、ホームで出来る限り看っていく事例が多くなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・ISO認可事業所と言うこともあり、マニュアルに沿った対応を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・事故発生時の緊急マニュアルに沿って対応し、年2度避難訓練を行っている。緊急通報システムあり。 ・スプリンクラーあり。	敷地内に母体施設があり、避難訓練や緊急通報システム、緊急マニュアルの整備等の施設全体で対応する体制が確立しており、定期的を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・個人情報保護規定やISOに基づくマニュアルに沿った支援、施設理念として利用者のプライド、プライバシーの保護を大きく掲げている。年1回施設全体会議での研修を行い、全員出席を課している。	リビングにおいて、個別に対応する時の声掛けは小声で、誘導動作は丁寧さが徹底しており、必要以上のケア行為や無駄な私語が無く、利用者に対する尊厳のあり方に快さを感じた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・日常生活の中で選択肢を明確に伝えることにより、押しつけの支援にならないようにしている。ご本人の希望を第一に考えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・日々のスケジュールはあるが、個々の体調や要望を考慮して自由としている。基本的には毎日入浴ではあるが、無理強いはず、他の対応で清潔を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・毎日の入浴時間の着替えの衣服の選択は、職員が付き添い、助言を行いながら、ご本人で行ってもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・好みの料理をお聞きしながら食材選び調理をしている。以前は利用者も片付けをされていたが今はしていない。	2つの食卓に別れ、職員が間に入って、思いのままにゆっくりと一汁三菜の食事が始まり、互いの好物を話し合ったり、和やかな食事風景がある。誕生月には特別に好物が提供され、行事食やボランティアと一緒に手作りを楽しむ機会もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・毎回摂取量を記録することにより、ご本人の食事量・水分量の把握が出来る。 ・食事量はご本人と相談し適量を提供、水分量は一日1,500mlを摂取して頂けるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、口腔ケア、口腔内チェック、必要に応じてお手伝いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄チェック表にて確認。個々に応じた支援を行っている。	サービス理念の中の「目指す施設像」に「おしめ外し」が謳われており、「おむつ0です」と即座に回答があった。早め早めの支援と「濡れても大丈夫」と言うおらかな職員の対応と支援に支えられて実現している。小声でさり気なく誘導している職員のプロ意識を感じる場面を多く見ることが出来た。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・個々に応じた水分のとり方や食材への配慮、食物繊維の考慮を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・基本的には毎日入浴、時間は午後のご本人の意向を重視し、楽しみにして頂けるよう心掛けている。	隔日実施をしている。「今日も入りたい」と希望があれば受け入れている。家庭的な浴室にシャワー椅子や手摺を完備し、移動時の不安感を排除して、一对一の時間帯を楽しんでもらえるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・個々の体力に見合った休息をし、個々の生活リズムを大切にしている。安心して休んで頂ける様な声掛けに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬は職員が把握でき情報を共有できるシステムにしている。変更がある時は、連絡帳で情報の共有を図る。毎日のバイタルチェックで症状を確認して、変化のある時は、担当医に連絡・相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・個々の楽しみは違う為、ご本人の希望に沿いながら張りのある生活を送って頂けるよう支援している。 ・役割については、ご本人と相談しながらお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・散歩、ドライブ等は、利用者の要望があればいつでも出掛けるようにしている。	買い物の途中に自宅訪問をしたり、ドライブに出掛けることもある。寒い地域なので日常の外出は困難な面があるので、ボランティアとの触れ合いや、避難訓練のついでに日光浴を楽しむ等、色々な機会を大切に捉えて外出支援している姿を記録写真から見ることが出来た。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・お金の管理が出来る方がいない。(ご家族も希望されない。)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・能力に応じて近況連絡やお礼状を書く支援。 ・ご家族に連絡がしたいとの要望があれば、すぐに対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節感のある壁画構成。 ・整理・整頓を心がけている。	2つの食卓と円形型に配置したソファコーナーがあり、広すぎないリビングはお互いの顔を見守り合える温かさがある。壁には、毎年、ひと月毎の作品をみんなで作り、12月に1年分が完成するという作品が飾られている。みんなのアイデアを集結した作品は訪れる者をも温かく迎えてくれる。ほど良い広さと落ち着いた雰囲気の中で利用者は居心地良さそうに過ごしていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースが狭いのでソファの座り位置等考慮し、全員の方が居心地の良い場所であるように配慮を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ベッドに位置。 ・ポータブルトイレの設置。 ・ご本人の希望に応じた家具の移動等ご本人の意に添った居室づくりを心掛けている。	必要な人のベッド脇に設置してある家具調のポータブルトイレが部屋にマッチしていて居室作りへの配慮が伺える。趣味の小道具を並べている人、何も置かない人等それぞれの暮らし方が現れている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・転倒防止の為に手摺の設置。 ・ベッドに移動バー設置 ・施設内24時間換気のロスナイ設置。		